

## アメリカ留学を通じて学んだこと

情報文化学科 2年 野崎美希

私は、留学の中で語学を学ぶだけでなく、現地ならではの貴重な体験をすることができました。始めのうちは慣れない環境での生活になかなか馴染めず苦勞しましたが、時間の流れはあっという間で 4 カ月がとても短く感じられました。大変だったことはたくさんありましたがその分得るものがあり、同じくらいに楽しい時間を過ごすことができました。これも、留学先で先生方や友人達から支えて頂いたおかげだと思います。今では留学に参加して本当に良かったと思っています。

私が留学の準備をしたのは比較的早かったのですが、親戚から借りていたスーツケースのサイズが規定外だったことに気づき、スーツケースを買いに行き詰めたため出発日直前までどたばたと準備をしていました。当日は無事に出発することができ、アメリカに到着することができました。私は今まで飛行機で長時間移動したことがなかったので、到着したときにはとても疲れていました。最初の 2 週間ぐらいは生活に慣れず、度々ホームシックになりました。また、英語が聞き取れず、学生と会話をする際など相手に話すスピードを遅くしてもらったり、何度も繰り返してもらったりしなければいけませんでした。そのため、会話が進まず相手にとっても申し訳ない気持ちになることが多くありました。そして、自分が伝えたいことを英語にすることは難しく、話したいことがあってもそれを英語で表現出来ず、悔しく感じることもありました。しかし、生活をしていく中で聞き取れる単語の数が増え、自分の話したいことが話せるようになっていくのを実感してからは毎日が楽しくなりました。生活面では主に食事に慣れることが出来ず、よくお腹を壊していましたが、生活していくうちに適応することができました。そこでは、大変だったことも楽しかったこともありましたが、全ての思い出が私の宝物となりました。

最初に、一番苦勞したことは Speaking Class でのスピーチと Conversation Partner との会話でした。Speaking Class では 1 週間に一回行われるスピーチがありました。学校では毎日様々なイベントが行われていました。それは、フットボールなどのスポーツの試合からハロウィンや Thanksgiving day などの文化的なイベントまで幅広く行われていました。そのイベントに参加してそこで起こった出来事をスピーチにするというものだったのですが、私はこれにとっても苦勞しました。元々あがり症だったため人前で話すことが苦手でした。それに加えて英語で話すということは私にとってかなりハードルの高いもののように感じられました。そして、最初のスピーチは考えていた通り緊張でガチガチになってしまい、何度も噛んでしまいました。しかし、回数を重ねるごとに慣れていって噛むことも減り、過度な緊張もすることがなくなりました。私はこのことが 4 ヶ月間で一番嬉しかったです。スピーチは何度かグループでの発表があり、そこではクラスメイトと意見を出し合って発表に向けてスピーチを作り上げていくこともありました。これは、みんなで時間を合わせてスピーチの練習をしたことが強く思い出に残っています。また、

Conversation Partner の時には、Conversation Partner であつた Melanie という女性と週二回のペースで図書館を使ってお話をしていました。最初のうちは彼女の話す英語がほとんど聞き取れず何度も聞き返したりすることが多かったのですが、日に日に話を理解できるようになりスムーズに会話が出来るようになりました。彼女はとても優しく、分からないことを聞くといつも丁寧に教えてくれました。また、パソコンを使って様々な動画やニュースの記事を紹介してくれたりしたので、毎回の Conversation Partner の時間が私にとっては楽しみで待ち遠しいものとなっていました。



会話の内容は、家族や友人のことなどの身近な話題からその日のニュースを使った政治や文化についての話題まで幅広く展開し、飽きのこない充実した時間を過ごすことができました。そのため、最後の Conversation Partner の時間がとても寂しく、彼女に会えなくなるのがとても悲しかったです。帰国してからも時々連絡を取り合っているのですが、いつかもう一度アメリカを訪れて彼女に会いたいと思っています。

次に、一番楽しかったことは大学内で行われていたたくさんのイベントに参加したことと Thanksgiving Break の期間中にホームステイをさせてもらったことです。大学内では毎日様々なイベントが行われていました。そのなかでも、記憶によく残っているのはアメリカンフットボールの試合と International Flag Raising Ceremony というイベントです。私は今までフットボールの試合を生で観戦したことがなかったのですが、初めて大学生のフットボールチームの試合を観戦することができました。最初はゲームのルールがまったく分からなかったのですが、何度か試合を見ているうちになんとなくルールが分かるようになり、それからは観戦が楽しくなりました。試合会場は吹奏楽部やチアリーディング部の応援によっていつも盛り上がっていました。フットボールに限らずスポーツを観戦していた人々はいつも一生懸命応援していて、選手と一緒に悲しんだり喜んだりしていました。そこで一緒に大学のチームを応援することはとても楽しかったです。試合の後には選手の方々が快く写真に応じてくれたため、良い思い出を作ることができました。また、International Flag Raising Ceremony というイベントではそれぞれの国の学生によって国旗があげられました。そこではその国独自の衣装を身につけている人々がいたりして、見ているだけでもとても楽しいものでした。その日は国情生みんなで浴衣を着て参加したのですが、普段浴衣を着る機会があまりないので着付けに苦労したのをよく覚えています。他にも、映画やコンサートを見に行ったり動物と触れ合える機会があったりと日々違った体験をすることができました。そのため、毎日充実した生活をする事ができ、4か月があつという間に過ぎていった気がします。次に、ホームステイでは、ESL クラスの先生である Mrs. Hardee のお宅へ五日間滞在させていただきました。ホームステイ中はとても親切にいただき、様々なところに連れて行ってもらいました。そのなかでも印象に残って

いるのは Thanksgiving Day とボンファイヤーです。Thanksgiving Day にはハーディさんの娘さんのお宅に親戚などが集まって七面鳥やハム、かぼちゃやラズベリーを使ったパイなどの伝統的な料理が並び、それらの料理を食べながら交流を楽しむことができました。並べられた料理はどれもおいしく、ハーディさんの家の方々は皆優しく親切な人達だったのでホームステイ中はとてもリラックスして過ごすことができました。そしてまた別の日に私はボンファイヤーを体験したのですが、この経験は私にとってとても思い出に残るものとなりました。ボンファイヤーは木の枝を集めて燃やし、焚火のようにして行われました。そこでソーセージを焼いてパンと合わせてホットドッグを作ったり、マシュマロを焼いてチョコレートとビスケットで挟むことでスモアというお菓子を作ったりして食べました。枝を燃やすのに時間がかかった分それらはおいしく感じられました。他にも買い物に出かけたり家でカードゲームをしたりもしました。トランプなどの遊びかたはアメリカと日本で異なっていたため、ゲームのルールを教えあうことでお互いに別の遊びかたを学ぶことができる良い機会となりました。そのため、5日間のホームステイによってたくさんの貴重な体験ができたと思います。ホームステイ中に親切にいただいたハーディさんと家族、親戚の方々にはとても感謝しています。



そして、大学内での生活や授業では大変だったこともありましたがたくさんの思い出ができました。まず、生活面では食事の点で慣れるまでに時間がかかりましたが特に問題は起こりませんでした。想定していた時差についてもあまり感じることはなく外が暗くなると寝付くことができたため、生活のリズムが崩れることもありませんでした。しかし、授業面では最初のころは先生の話している英語が聞き取れず、日本にいた時にもっと英語を勉強していればよかったと後悔しました。しかし、授業の回数を重ねていくうちにだんだん聞き取れる単語が増えていき、授業を受けることが楽しくなっていました。また、授業で話される英語が聞き取れるようになると、以前より授業外で話されている英語を聞き取りやすくなりました。そして、英語を聞き取れるようになると、自分自身の中から英語で会話したいという意欲が湧いてきました。元々私は内気な部分があり、留学についてとても不安に思っていました。そのため、最初の一カ月は英語を使って人と会話することに少し苦手意識を持っていました。しかし、毎日の授業を受けて文法を1つ1つ確認していくうちに自分の英語に自信が持てるようになり、少しずつ苦手意識が消えていったような気がします。そして、人との会話が増えると話題が広がり、会話の中で他国の人との考え方や文化の違いを感じることができ、自分が知らなかったことをたくさん学ぶことがで

きました。現地で出会った人々はみんな暖かくて優しい人ばかりでした。つたない英語を使って会話をする私に嫌な顔ひとつせず接してくれたことに、今でも感謝しています。私は人と会話をするたびに自分の英語の力が弱い事を痛感し、もっと英語が上手になりたいという思いが強くなっていくように感じました。私はこの留学を通じて英語を勉強する意欲が増したとともに、人と会話をして交流することの大切さを改めて実感できたと思います。私にとってこの留学はとても良い経験となり、自分を成長させるきっかけとなったと思っています。そのため、この留学の経験を無駄にすることなく、自分の将来に生かすことができるようにしたいです。そしてまたいつか、再びアメリカを訪れることができるといいなと思っています。